靭帯接合

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

切断した靭帯を修復する術式。靭帯は4本で1セットになっており、まずは4本の靭帯を1本ずつ垂直に伸ばしてくっつける処置を行なう。4本の靭帯がくっついたら、接合部を縫合すれば処置完了。縫合まえに1本でも伸ばす処置をミスするか、ほかの処置でミスをしてしまうと、仮にくっつけていた靭帯はすべて離れてやり直しになる。そのため、どの靭帯をつまんだのかを確認してから伸ばそう。とくに右側と中央部の隣接している靭帯でミスが起きやすい。ピンセットの位置に注意して処置をすること。



接合部を縫うときは写真のように「W」を書くように縫合しよう。「Z」のように塗っても縫合はできない。

【手　順】

1	ピンセット	靭帯を繋げる
2	針と糸	繋げた靭帯を縫う

評価ポイントに関わる要素

- 靭帯をミスなく繋げる
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

変異腫瘍

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

心臓に発生する変異腫瘍を治療する術式。患部の摘出処置は組織液を吸引し、ガイドラインに沿ってメスで切り取ったあと、患部を回収トレイに乗せるといった手順で可能だが、この腫瘍は一定間隔で赤と青に色が変わる特徴を持ち、赤のときに触るとガスを生み出す。手を加えてない変異腫瘍以外の患部にガスが触れると血だまりや炎症が発生してしまうため、処置を青のときに行なう必要がある。ただし、赤から青に点滅しているあいだは処置してもミスにはならない(超執刀使用中は除く)。そのため、青に切り替わるタイミングで組織液の吸引を始め、色が変わるまでに切開を行なって切り離し処置を一気に終わらせてしまいたい。ちなみに、ピンセットで腫瘍を運んでいるときは色が変わらない。安心して運ぼう。

患部を摘出したら、切除痕に人工膜を乗せてヒールゼリーで定着させれば処置完了。血だまりが発生している場合は吸引しておくこと。なお、評価が表示されるのは患部回収時のみで、それ以降の処置には評価は用意されていない。



患部の色が変わるときは腫瘍が点滅する。青から赤に点滅し始めたら処置を止めて　ほかの腫瘍を治療しよう。



赤色になるとガイドラインが消えて吸引し直す必要がある。組織液の吸引は切り替わる直前から行なうとよい。



特殊な変異腫瘍を処置するには超執刀が必須となる。超執刀の能力で色が切り替わるまでの時間を遅くしよう。

【手　順】

1	ドレーン	変異腫瘍の組織液を吸引する
2	メス	ガイドラインに沿って患部を切り取る
3	ピンセット	切り取った患部をトレイへ運ぶ
4	ピンセット	人工膜を切除痕に乗せる
5	ヒールゼリー	人工膜を定着させる

評価ポイントに関わる要素

- 組織液が再発するまえに変異腫瘍を切り離す
- 変異腫瘍を落とすことなくトレイへ運ぶ
- 赤色の変異腫瘍には触れない

ペースメーカー・設置

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

心臓にペースメーカーを取り付ける術式。追加トレイにあるペースメーカーをふたつの矢印の範囲内に置き、さらに2本のリードを本体に設置する。リードを設置するときは、リードの先端が本体上部にある緑色の部分に触れているときにリードを離そう。それ以外の場所で離すと「Miss」になり、評価が下がる。2本のリードを設置したら、ガイドラインにメスを入れて切開。ただし、リード回収後に再度設置するときは、エコーで接合部の影を表示させてから切開になる。このとき　影の表示回数が2回以下なら問題ないが、3、4回だとその後の評価が「Good」以下になる。あとは接合部に発生した血だまりを吸引し、リードの先端を接合部に差し込み、接合部を縫合すれば設置の処置は完了となる。



接合部の影を表示させるときは、一度の入力でしばらく表示し続けるので、何度も画面をタッチしないように。



リードを心臓に挿すときはリードの先端部分をピンセットでつまみ、切開口に対して垂直に入れよう。

【手　順】

1	ピンセット	ペースメーカーを設置する
2	ピンセット	ペースメーカーにリードを取り付ける
3	スキャナ	リードの接続部を特定する ※
4	メス	接続部を切り開く
5	ドレーン	血だまりを吸い取る
6	ピンセット	リードを接続部に挿す
7	針と糸	接続部を縫う

※リード取替時のみエコーで影を表示させる

評価ポイントに関わる要素

- ペースメーカーやリードを正しい場所に配置
- 接合部の影を何度も表示させずに切開する
- ミスなくリードを切開口に刺す
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

ペースメーカー・取替

▶使用器具 ▶評価ポイント ○

心臓に取り付けられたペースメーカーのリード部分の回収処置。まずはリードの接合部(心臓側)をヒールゼリーで消毒し、接合部をメスで切開する。つぎに切開部から発生した血だまりを吸引し、リードの先端部分をつまんで心臓から抜き取る。このとき「Miss」を1回でもしたり、リードの先端に血だまりが再発すると「Cool」評価は獲得できなくなる。リードを正しく抜いたら切開口を縫合。一定時間経過で血だまりが発生するので、そのまえに縫うこと。2本のリードを抜き終わったら、あとはペースメーカーに付いたリードを1本ずつ回収トレイに乗せて処置完了だ。



心臓からリードを抜き取ると自動でリードが垂れ下がる。その状態になったのを見てからピンセットを放そう。

【手　順】

1	ヒールゼリー	リード接合部(心臓側)を消毒する
2	メス	ガイドラインに沿ってリードの接合部を切る
3	ドレーン	接合部の血だまりを吸い取る
4	ピンセット	リードを心臓から抜く
5	針と糸	切開口を縫う
6	ピンセット	リードをペースメーカーから外してトレイへ運ぶ

評価ポイントに関わる要素

- 血だまりが再発するまえにリードを抜く
- 心臓部からリードを正確に抜く
- リードを落とさずにトレイへ運ぶ
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある